新 今昔物語 第11話

大東ふるさとカルタに見る地域遺産③

『平安の記録にのこる須波麻さん』

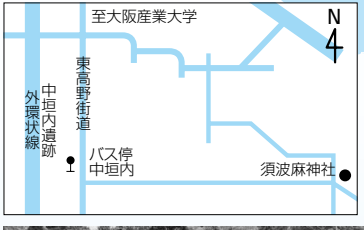
須波麻神社は中垣内2丁目に所在し、大国主命が祀られています。伝承ではこの神社の祭祀は出雲大社と同じで、古くは10月7日に大祭を行っていたといわれています。現在の社殿は明治36（1903）年に建立されたもので、拝殿の奥の本殿は春日造りの様式となっています。

平安時代の延長5（927）年に成立した『延喜式』の「神名帳」に記載されている本市唯一の式内社で、記録で確認できる神社としては市域で最も古い神社です。

当時は讃良郡6座のうちの1座とされていますが、古くは讃良郡から若江郡に至るまで、多くの村の氏子を有する神社であったといわれています。また、享保19（1734）年の『河内志』、享和元（1801）年の『河内名所図会』などの地域を紹介している本にも記されており、江戸時代においても名所として知られていたことがうかがわれます。明治6（1873）年には讃良郡の11ヶ村の郷社となりましたが、現在では中垣内地区の産土神として祀られています。

境内入口には伊勢参りの記念に建立された文政13（1830）年の「おかげ灯籠」が残されています。この灯籠は、当初は神社の西側を縦断する東高野街道沿いに建てられていたため、道標を兼ねた珍しい形をしています。

（生涯学習課）



須波麻神社

道標を兼ねたおかげ灯籠